※令和４年度以降入学生用

学校番号	３０１３

令和５年度　家庭科

教科	家庭科	科目	家庭基礎	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	家庭基礎　自立・共生・創造　（東京書籍）						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

よりよく生きるとはどのようなことなのかを考え、関心を持ち、自ら実践してみましょう。
・生活の様々な現象や、社会的な課題について知識を深めます。
・ワークショップや実習等を通し、周りの人の多様な考え方を知り、自分の考えを持ちます。自分の考えを、積極的に表現してみよう。
・実践的、体験的な学習を通して、確かな技術を身につけます。
・学んだことを自身の問題だけでなく、社会の問題として捉え、充実した生き方を目指します。

２　学習の到達目標

人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、生活的自立を図るとともに、地域社会の一員としての自覚を持ち、生活の充実向上を図るための思考、判断、表現力を身に着け、生涯主体的に学び続ける態度を持つ。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	人の一生と家族・家庭及び保育・福祉、衣・食・住生活、消費生活に関する基礎的・基本的な知識と技術を身につけている。	個人生活の充実向上と、社会が抱える問題の解決を図るための課題を見出し、思考を深めて判断し、それを表現、実践する力を身につけている。	家庭科の各学習領域に関心を持ち、個人的生活の充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、市民社会の担い手として、生涯発達を続ける態度を持っている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
一学期	家族・社会との共生	人生をつくる 家族・家庭を見つめる 子どもと共に育つ 超高齢社会を共に生きる 共に生き、共に支える	a:家族・社会との共生に求められる基礎的な知識、技術を身につけている b:家族・社会との共生について思考・判断し、自身の意見を表現できる c:自立を目指して、青年期の課題や社会問題について学ぶ態度を持っている	考査 提出課題	考査 提出課題 グループワーク 発表	授業観察 提出課題 グループワーク 発表 自己評価
二学期	生活の自立	食生活をつくる	a:食生活の自立に必要な基礎的知識、技術を身につけている b:自身と家族の食生活について思考を深め、考えを表現できる c:健康的な食生活について、生涯学び続ける態度を持っている	考査 提出課題	考査 提出課題 実習レポート	授業観察 提出課題 実習レポート
		衣生活をつくる 住生活をつくる	a:安全で快適な衣生活、住生活の実践に必要な基礎的知識、技術を身につけている。 b:衣生活、住生活の安全や快適性について思考・判断し、表現できる c:衣生活、住生活の自立をはたそうとする学習態度を持っている			
三学期	生活の自立・生活の創造	経済生活を営む 持続可能な生活を営む これからの生活を創造する	a:消費生活の課題、環境問題について、基礎的な知識、技術を身につけている b:市民社会の担い手として、思考・判断し、自身の意見を表明できる c:生活創造者として、また市民社会の担い手として、よりよく生きるために学び続ける態度を身につけている	考査 提出課題	考査 提出課題 グループワーク 発表	授業観察 提出課題 グループワーク 発表 自己評価

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度